

MWM

Vol.06
since 2020

MSD Wellness Magazine For medical market of the world

There is no border to wish for health

YUKI MASUDA

増田 勇樹 Thailand

MSD / MSD Labo 代表取締役

今、日本の有資格者、医療従事者は
立ち上がるべきタイミングにきている。
ビジネスとしても、医療マーケットは転換期に差し掛かる。
ずっと、その為の準備をやってきた。

増田
勇樹



常に周りに目を配り必要な情報を集め、変化に適応出来るセラピストに。

増田：増田勇輝 / 柳：柳 和成

柳：初めはサッカーはサッカーチームのトレーナーで行かれたんですね。「自分でやらざるを得ない」と話されましたが、実際にはどのようなことをやられていったんですか？

増田：VISA関係から、集客から、今後どうするかなど、色々ですね。タイに行く前からのプランが全て崩れたので、本当に一からでした。当時、そんな中でスタートしたので収入もメドが立たないので、本当にタイのローカル、現地の人と同じような暮らしをしていました。

柳：それはハードですね。しかも海外ですから、日本で職を失うとは訳が違いますからね。言葉の壁もありましね、そこから、どうやって今に繋がったんですか？

増田勇樹：現地でビジネスを展開している方に色々アドバイスを頂いたり、クライアントさんもほぼ口コミ紹介で。

やはり、現地に根付いている人達のアドバイスやサポートが無ければ1人では何も出来なかったと思います。

柳：いろいろ協力してくれる人に出会われたんですね。やはり海外でやっていくには、現地での交流が必要になりますからね。だいたい、どれくらいの期間で先の目処が立つ様になったのですか？

増田：3カ月くらいでは何とか最低限の生活出来るようになりました。

しかし、思いもよらない事がまだまだあるので日々格闘しています。

柳：具体的なサービス内容というか、どういった仕事をされてるんですか？メニュー的な。

増田：主にパーソナルに関しては大きく3つあります。整体という形でボディコンディショニング、トレーニング指導、ルーシーダットンというタイ式のヨガですね。あとは、企業や個人向けの医療、健康に関するセミナーも行っています。

また、日系企業やサービスアパート向けの健康相談の窓口なども行っています。

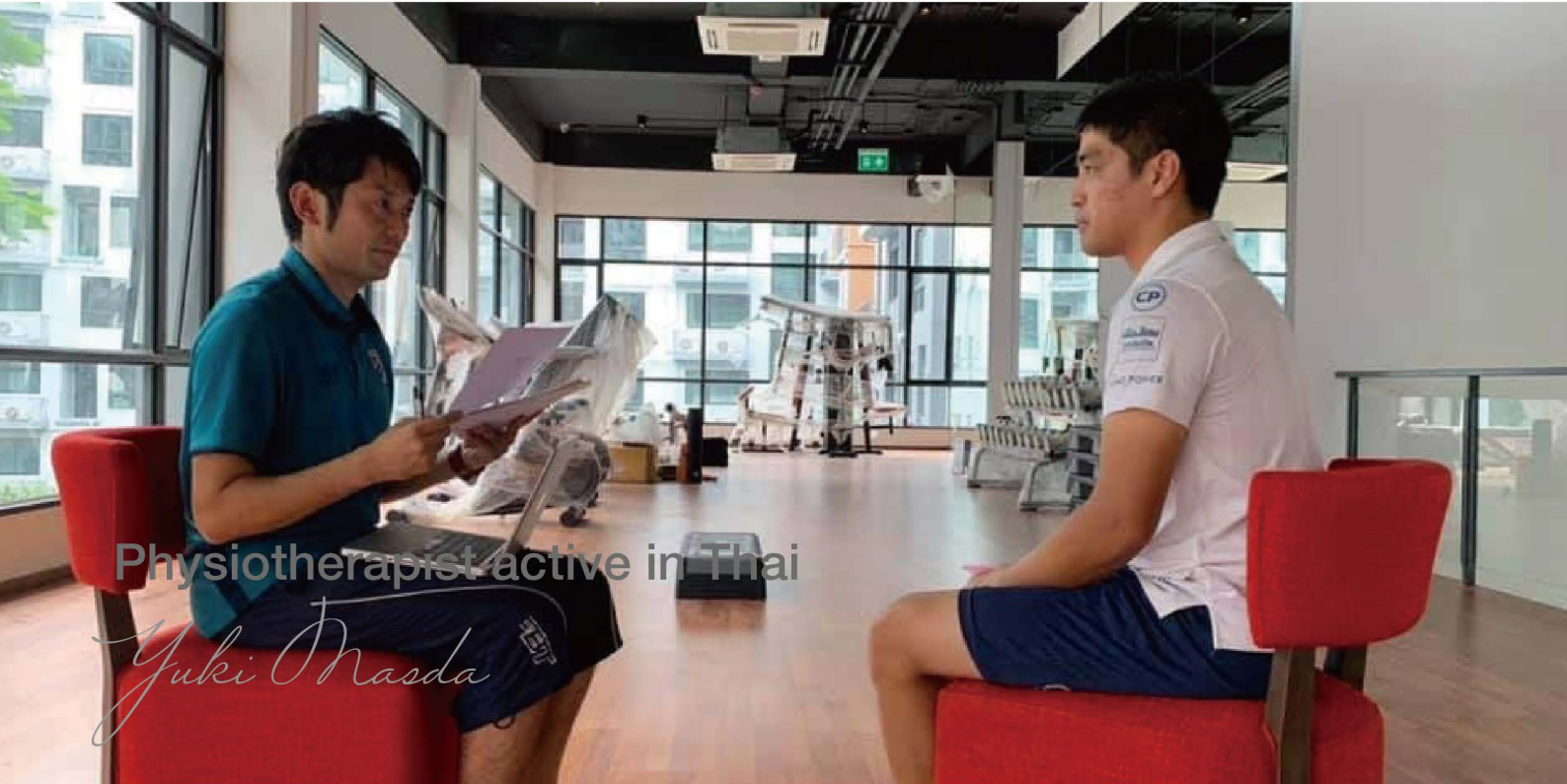
柳：1人で始めたんですね？それにしてもかなり多いメニュー量ですよ？

増田：初めはボディコンディショニングだけをタイでやろうと思ってました。しかし、タイで活動していく中色々こんな事して欲しいとか、こんな事が困るとか。そんな町の人の声がありまして。それを形にして行った時に、これだけのメニューになりました。

柳：ニーズに応じていった結果こうなったといった感じなんですね。マーケットにおけるスタンス的には「医療」っていう感じではないような感じなんですが、その辺り何かこだわりはあるんですか？

増田：医療という形で症状や身体が悪くなってから受けるというスタンスに限界を感じたという事がありますね。1人で沢山をみることは不可能です。特にタイの医療に関して、設備はいいですが、医療従事者などの技術は高いとも言えません。

そこで、医療を受けなくても済む人が増えればいいのではと考えるようになりました。なので、医療というよりは「予防や健康増進」という考えで日々活動しています。



Physiotherapist active in Thai

Yuki Masuda

増田：増田勇輝 / 柳：柳 和成

柳：なるほど、その辺りがやはり今のやっているスタイルというか、活動そのものになってる訳ですね。タイの医療現場は、日本などに比べてまだまだって感じですか？

増田：タイの医療現場は、実は私立病院では設備は凄く最新の物導入しています。日本でもなかなかお目にかかれない日本製のCTやMRI、欧米のリハ機器などもあります。

私立病院ではビジネス色が、強くとても良い設備を投資して、高い治療費の設定にしているところが多いです。

一方、ソフト面のヒトの部分ではあまりレベルが高いとは言えない場面もあります。例えば、リハビリなどでも物理療法のみで運動療法や徒手療法などは少なく、計画的なリハビリプランが立てられない人が多いと言ったこともあるそうです。しかし、勉強はしてるとの事で日本で勉強してみたいという人も居ました。

柳：そうなんですね。そう聞くと、タイはマーケットとしても、まだまだ日本人の医療従事者が入っていくことが出来そうですね。

増田：そうですね。ヒトの教育やシステム構築などで、日本の医療従事者が必要とされる事はあるのでは無いでしょうか。

柳：そのようなニーズに対して、何か考えてることはあるのですか？

増田：ヒトの教育という部分では、まず現在ではサービスアパートやムエタイなどのタイ人スタッフへのトレーニング指導などを行っています。トレーニングを指導する上で、怪我の予防に繋がるようなフォーム指導だったり、メニュー構成などを指導しています。今後は、タイの病院とも連携を取っていく予定で、タイ人のPTへのサ

ポートも考えています。システム面では、弊社の取り組みの中では企業やサービスアパートの中に、医療従事者による相談窓口を設置して、様々なアドバイスを受けられるようなサービスを展開しています。

柳：色々考えてるんですね。これからタイの現地マーケットではヘルスケアのビジネスは伸びていくんでしょうか？

増田：タイの政府も、生活習慣病の改善などに乗り出しています。タイ人は甘いものが大好きで、ラーメンに砂糖を山盛りに入れたり、ジュースやコーヒーでも甘いものが大好きです。その為、肥満はもちろんの事と糖尿や高血圧といった疾患にかかる人が増えています。近年、コンビニやスーパーでも、低糖質な物を売っていたり、ランニングやフィットネスなどを行うタイ人も増えています。夕方の、公園に行くと日本で見た事が無いくらい大勢の人が走ったり運動しています。最低賃金の水準が、年々増えている為、健康に対してお金を使う人が多くなってきています。

柳：やはり近代化が進むとどの国も同じような問題を抱える訳ですね。今は主に日系の方達をメインにされてるんですね？

増田：主に日本人が多いです。中にはタイ人やシンガポール人なども居ます。タイ人のムエタイトレーナーや、サービスアパートのスタッフに対してトレーニングメニューを作成して指導したりもしています。

常に周りに目を配り必要な情報を集め、変化に適応出来るセラピストに。



Physiotherapist active in Thai

Yuki Nasda

増田：増田勇輝 / 柳：柳 和成

柳：その辺り、日本の医療従事者のニーズは増えていくと思わされますか？

増田：そうですね。増えると思います。

今、世界で働いている日本人PTの座談会などを行っていますが、海外に進出するセラピストが多いという印象は受けますね。

タイだけでなく、色々な国や地域でセラピストが活動しているのを見る機会が増えました。

柳：じゃあ実際にタイに行きたいと考える医療従事者の方がいたらどうすれば良いですか？

増田：そうですね。まずはMSDに問い合わせさせて頂いたらと思います。タイでのネットワークを構築していますので、病院やクリニックなどの視察も出来るように動いています。

今後は、タイのスタディツアーなども計画していて、学校や医療従事者の人もタイで学ぶことが出来るような事も考えています。

柳：スタディツアーとかは本当に良いですね。

海外には旅行に行っただけでは決して見れない部分がありますからね。海外で仕事をと思ってない方も見識を高めるうえでも是非参加してみればと思いますね。

今後もどんどんとタイの現地の情報を発信して下さい。

それでは最後に日本の医療従事者の方々に何かメッセージをお願いします！

増田：とても日本の医療従事者の知識やスキル、探究心はとても高いと思っています。特に海外に出ても、本当にそう思います。

ただ、今世界では医療だけでなく様々な業界がどんどん変化しています。日本のスキルや技術を欲している国が居たり、欧米などの先進国はどんどん日本含む他の国へ医療サービスを展開したり。

今まで以上に、環境が変わりセラピストに必要な能力も変わってくるかもしれません。

専門知識だけでなく、社会情勢やIT、ビジネス、語学など様々な知識が必要になってくると思います。

これからは知らない、出来ないでは済まなくなってくるでしょう。

そうならないように、常に周りに目を配り必要な情報を集め、変化に適応出来るセラピストと一緒にやって行きたいと思っています。

柳：それはどこの業界でも同じですよ。

確実に需要のあるマーケットなのなら、その先がげとしてこれからの医療従事者を是非牽引して行って貰えればと思います。本日はお疲れ様でした。

常に周りに目を配り必要な情報を集め、変化に適応出来るセラピストに。